『もっと！！本野通信』　№145

諫早市立本野小学校長　永　井　洋

一人一鉢　～３・４年生がナデシコを育てます～

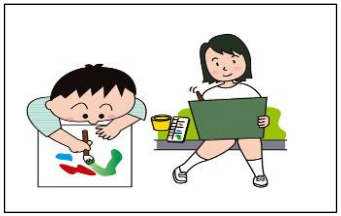
ゲストティーチャーに、菊づくりの先生である三ヶ島さんをお招きし、鉢に入れる土の役割や分量の説明を受け、まず土を入れました。その後、ポットの苗を優しくひっくり返し植えました。肥料の説明もしていただき、これから子どもたち一人ひとりがお世話もします。どのような花が咲くのか楽しみです。春まで大切に育てます。





こども県展入賞者紹介

１学期から、図画工作科の学習の中で取り組んできた、絵画作品を中心に、こども県展に出品しました。市内の審査会を通過し、県の審査に進んだ（入選作品）子どもたちを紹介します。



【２年】	片山　かよこ　さん　　峰　あかり　さん 峰　さやか　さん
【４年】	末次　健太郎　さん
【５年】	前田　結　さん

県の審査が楽しみですね！！

菊の花が開いています



ここ数日の、寒暖差が影響したのか、菊の花が開き始めました。15日までは、あと１０日です。みなさんに鑑賞していただけるか少し心配です。正面玄関に数鉢展示していますのでご来校の際はぜひご覧ください。

～校長室の窓から～

№129で水無月について書いたことを思い出しました。そういえば先月が神無月だったと思い、なぜ 10 月を神無月というのかを調べてみました。これも諸説あるそうですが…

10 月は全国の八百万の神様が、一部の留守神様を残して出雲大社（島根県出雲市）へ会議に出かけてしまうと考えられてきたそうです。そのため、神様が出かけてしまう国では、神様がいないので「神無月」、反対に出雲の国（島根県）では、神様がたくさん集まるので「神在月」とよばれるそうです。

また、他の説では「神無月」の無を〝の〟と訳し、「神の月」とする説もあるようです。「神無月」も「神在月」も、神々が集う大切な月を表していることは間違いないようです。

年に一度、出雲大社に集まった神様たちは、人の運命や縁などを話し合うそうです。遠く離れた者同士が、縁あり結ばれることがありますが、この会議の結果なのかもしれません。そのため、出雲大社は縁結びの総本山とも言われます。また、次の年の天候、農作物の出来なども話し合われているそうです。信じるかどうかは別にして、なんだかロマンを感じます。再度、出雲大社に出かけてみようと思いました。